

授業概要

いわゆるアベノミクスのもとで、円安が進み、株価も上昇してきました。景気も上向き、物価も上昇してきています。長かったデフレもようやく終わることが期待されています。

本講義では、アベノミクスとはどういうものを明らかにします。

そのため、戦後の日本経済と金融、資産バブル、平成大不況、政府の経済政策、日本銀行の金融政策について、くわしく指導します。

授業計画

第1回	現状の日本経済は
第2回	絶望的に貧しかった戦前
第3回	戦争放棄と民主化
第4回	歴史上まれにみる高度経済成長
第5回	高度経済成長がついに終焉
第6回	アメリカとヨーロッパへの輸出
第7回	日本列島改造論
第8回	バブル経済と崩壊
第9回	アメリカ型新自由主義の導入
第10回	デフレとは貨幣現象なのか
第11回	日本銀行のデフレ対策
第12回	日本銀行の異次元緩和
第13回	デフレの克服は可能か
第14回	1千兆円の政府債務は返済できるか
第15回	日本経済のゆくえは
第16回	試験

到達目標

デフレが長期化した要因を理解したうえで、日本銀行の異次元緩和によって、本当にデフレを克服できるのかを明らかにします。

アベノミクスというものの概要を理解してもらうことを到達目標としています。

履修上の注意

演習をおこなっている間に、いよいよ、アベノミクスが成功するか否かが、見えてくるはずです。ですから、新聞をよく読むことや日々のニュースに関心を持ってください。

予習復習

演習では、資料や新聞記事などを読みます。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には、復習してください。

評価方法

試験の結果や出席によって評価します。

とくに、演習で積極的に意見などを述べる学生を高く評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。

授業概要

春期においては、経済新聞の記事を軸にして経済経営学部で勉学するための基本的な知識習得に励んできた。秋期では、そうした経営活動の把握を促進するための数量的な分析に取り組んでみたい。とはいえ、難しいことではなく、少なくとも EXCEL を満足に操作できるまでの入門レベルである。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	Excelの入力方法
第3回	Excelでの表作成
第4回	Excelでのグラフ作成 1
第5回	Excelでのグラフ作成 2
第6回	Excelでのグラフ作成 3
第7回	Excelでの計算式の入力方法
第8回	アドインソフトの使い方 1
第9回	アドインソフトの使い方 2
第10回	アドインソフトの使い方 3
第11回	欲しいデータの検索方法 1
第12回	欲しいデータの検索方法 2
第13回	実際に分析してみる
第14回	発表の形式を考える
第15回	お互いに分析結果を比較する
第16回	定期試験

到達目標

経済学や経営学を学ぶにあたって、2年次以降に必要とされる数量分析の基礎を身につけて欲しい。また、数学が嫌いでも経済経営学部に入學してきた人にも、数字に関する感覚を磨き上げて欲しい、と願っている。

履修上の注意

EXCEL をすでに十分理解している人も、まったく理解していない人も、一度頭をリセットしてもらいたい。なぜならば、それぞれの理解の仕方にクセがあるかもしれないからである。

予習復習

講義は前回の内容を前提にして進行するため、その時々々の課題を完全に理解し、何より遅刻や欠席をしないことである。空いている時間に予習と復習に取り組んでももらいたい。

評価方法

出席の点数と、それぞれの課題について提出物の評価を総合する。

テキスト

テキストについては、特に指定しない。必要な資料は、その時々々に用意する。

授業概要

この演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習では、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つこと、また社会への関心、国際的な視野を獲得することができるように指導する。

授業計画

第1回	本演習の進め方や評価方法
第2回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第3回	専門的な文章の読解力の向上(1)
第4回	専門的な文章の読解力の向上(2)
第5回	専門的な文章の読解力の向上(3)
第6回	専門的な文章の読解力の向上(4)
第7回	専門的な文章の読解力の向上(5)
第8回	文章の要約力とレジュメの作成(1)
第9回	文章の要約力とレジュメの作成(2)
第10回	文章の要約力とレジュメの作成(3)
第11回	各自のテーマによる調査発表と討論(1)
第12回	各自のテーマによる調査発表と討論(2)
第13回	各自のテーマによる調査発表と討論(3)
第14回	各自のテーマによる調査発表と討論(4)
第15回	各自のテーマによる調査発表と討論(5)
第16回	まとめ

到達目標

この演習は、大学における学習に必要な基礎的学力を向上させること、また経済経営社会への関心や国際的な視野を広げることを意図としている。

履修上の注意

- ・ 毎回必ず出席してほしい。
- ・ 演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。

予習復習

配布資料を事前に目を通しておくこと
発表や講義の要点をまとめること

評価方法

レジュメの作成と発表、課題提出、ゼミでの積極性などを総合的に評価する。

テキスト

- ・ 必要に応じて、参考資料を配布する。

授業概要

日本の高齢者人口が総人口に占める割合は 26.7%と過去最高を記録しており、主要な先進国で最高となっている。80 歳以上人口も 1000 万人を超えている中で、高齢者の健康的な生活や就業、家計、社会保障、医療や介護サービスのあり方に世界中が注目している現状の中、新たなビジネスシーンと社会構築が求められていることについて講義する。

授業計画

第 1 回	長寿国日本、超高齢社会日本
第 2 回	平均寿命と健康寿命について
第 3 回	アクティブ・エイジング
第 4 回	高齢化がもたらす現象、高齢者の特徴
第 5 回	運動、栄養、休養、睡眠の重要性
第 6 回	ボランティアと労働、生きがい
第 7 回	家族とソーシャルネットワーク
第 8 回	施設サービスと在宅サービス
第 9 回	地域包括ケア
第 10 回	高齢者生活支援サービス① 住宅環境支援サービス
第 11 回	高齢者生活支援サービス② 見守り、遠隔支援、移送サービス
第 12 回	高齢者生活支援サービス③ 配食、介護予防運動サービス
第 13 回	介護サービス① 認知症サポート
第 14 回	介護サービス② 代替療法の活用
第 15 回	介護サービス③ 介護用ロボット
第 16 回	試験

到達目標

- ・高齢化社会と高齢者の特徴について理解できる。
- ・生活支援サービス、介護ビジネスを含む高齢者ビジネスについて創造することができる。
- ・自分の考えをしっかりとち、意見を述べることができる。
- ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身につく。
- ・文章作成、資料作成能力が身につく。

履修上の注意

休まず積極的に参加すること。

予習復習

予習復習を必ずすること。

評価方法

発表点 (25 点)、レポート点 (25 点)、試験 (50 点)

テキスト

川原経営総合センター「介護ビジネスの動向とカラクリがよくわかる本」 秀和システム

授業概要

何らかの項目に焦点を当てて会計学を紹介している書籍が数多く出版されている。これらの書籍は、会計学あるいは記帳された数値に基づく会計情報が、実務ではこういった形で利用されているかを様々な視点から紹介し、説明しようとしているものが多い。そこで、教養としての会計あるいはある特定の実務的な会計情報の利用方法を知ることが本講義の目的とする。

講義の形式は、テキストを購入の上、各自が内容を報告し、討論する形式とする。

授業計画

第1回	ガイダンスと書籍の紹介
第2回	テーマ①についての報告と意見交換
第3回	テーマ①についてのレポート作成
第4回	テーマ②についての報告と意見交換
第5回	テーマ②についてのレポート作成
第6回	テーマ③についての報告と意見交換
第7回	テーマ③についてのレポート作成
第8回	前半レポートの質疑応答
第9回	テーマ④についての報告と意見交換
第10回	テーマ④についてのレポート作成
第11回	テーマ⑤についての報告と意見交換
第12回	テーマ⑤についてのレポート作成
第13回	テーマ⑥についての報告と意見交換
第14回	テーマ⑥についてのレポート作成
第15回	後半レポートの質疑応答
第16回	定期試験

※ なお、使用するテキストによって内容を変更する。

到達目標

- ・会計実務における会計情報の役立ちを知ること。

履修上の注意

- ・受講人数にもよるが、授業ではグループワークも行うため、積極的な発言が求められる。
- ・テキストは必ず購入の上、持参すること。

予習復習

- ・予習：テキストを読んできろ。
- ・復習：授業中に学んだ内容をレポートとしてまとめる。

評価方法

- ・受講姿勢を含めた平常点を50%、レポートなど50%の配分を予定している。
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には原則として単位を認定しない。

テキスト

- ・未定2冊程度（開講時に指示する）。

授業概要

1980年代以降に進行した貧富の格差問題を考える。また格差問題を考えるのに必要な経済学の基本的な理論を学ぶ

授業計画

第1回	演習のスケジュールについての説明
第2回	ピケティ理論の概要
第3回	格差の指標
第4回	格差に関するデータ
第5回	格差の理論
第6回	資本主義の特徴
第7回	資本主義と格差
第8回	日本の格差
第9回	アベノミクスの特徴
第10回	貨幣数量説の形成
第11回	量的緩和政策
第12回	貨幣の謎
第13回	日本経済の変化
第14回	日本経済の今後
第15回	日本経済への提言
第16回	テスト（課題レポートの報告）

到達目標

格差問題の現状を理解する。必要な基礎理論を理解する。

履修上の注意

自分の意見を積極的に発言すること。

予習復習

予習を重視し、自分の意見をまとめておくこと。

評価方法

レポートの報告と授業中の発言を重視する。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

大学における勉学において最も大切なことは、自分自身が最も探究したい課題やテーマを作り出すことである。これができるれば次のステップは必要な情報を収集し、解を発見することになる。教養演習では最初のステップの課題やテーマを各自作り出すことを目指す。

授業計画

第1回	教養演習Ⅰで各自が設定した「課題」「テーマ」の再確認
第2回	毎回2人ずつ各自の「課題」「テーマ」について報告・議論し、さらにウェブで必要な情報の探索をおこなう。
第3回	同
第4回	同
第5回	同
第6回	同
第7回	同
第8回	同
第9回	毎回2人ずつ各自の「課題」「テーマ」についてさらに深掘りした報告・議論をおこなう。
第10回	同
第11回	同
第12回	同
第13回	同
第14回	同
第15回	全体の総括的な議論をおこなう。
第16回	将来の勉学のための議論をおこなう。

到達目標

各自が最も関心があり、探究したい経済・経営にかんするテーマを発見する。
その解を見いだすために必要なウェブ情報の利用方法を習得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。

予習復習

日々、新聞の経済記事等に目を通し、自分自身の興味を明確にする努力をすること。

評価方法

授業への取組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

なし

授業概要

この授業の目的は教養演習Ⅰと同様に、一年生の基礎学力の向上と大学生としての教養を深めることである。教養書を輪読しながら議論することがメインになるが、このほかに、2年次の基礎演習での発表に備え、グループ・プレゼンテーションを取り入れる。発表を通じて、報告内容のまとめ方、レジュメの作り方、言葉遣い、チームワークの大切さを学び、今後の勉学に必要なスキルを修得していく。

授業計画

第1回	オリエンテーション（秋期授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第2回	教養書の輪読と議論①（例えば、竹田茂生他編『知のワークブック』）
第3回	教養書の輪読と議論②
第4回	教養書の輪読と議論③
第5回	教養書の輪読と議論④
第6回	グループ・プレゼンテーション① （例えば、「最強テーマパーク・ディズニーリゾートの強さの秘密」）
第7回	グループ・プレゼンテーション②
第8回	グループ・プレゼンテーション③
第9回	教養書の輪読と議論⑤
第10回	教養書の輪読と議論⑥
第11回	教養書の輪読と議論⑦
第12回	教養書の輪読と議論⑧
第13回	グループ・プレゼンテーション④ （例えば、日本女性の社会進出——歴史・現状・課題）
第14回	グループ・プレゼンテーション⑤
第15回	グループ・プレゼンテーション⑥
第16回	期末テスト

到達目標

- ①経済・経営の面白さを知り、基礎的な知識を身につけるようになる
- ②調査・発表・議論という一連の作業を通じて、論理的思考力、発表・説明するプレゼンテーション能力、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション能力を身につけるようになる。

履修上の注意

出席重視。無断欠席・遅刻する受講生はマイナス評価になる。

予習復習

与えられた課題や発表の準備をしっかりとこなすことが要求される。

評価方法

出席、授業態度、演習への参加の積極性と貢献度、発表内容などを総合して評価する。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

授業概要

大学で学ぶため社会で活躍するために必須である論理的思考を身につけることが本演習の目的である。情報があふれかえる今の時代において、情報を取捨選択し、正しい情報を収集加工する能力は重要であり、それらをもって、正しい根拠に基づき主張し判断することが求められている。

論理的思考を学ぶことにより将来、企画作成、戦略構築、ビジネスモデルの変革、等々を行うための基本スキルを身につけるための指導をし、さらにしっかりと文献を読み、議論することにより、コミュニケーション能力を実践的に高めるための指導をする。

授業計画

第1回	概要－論理的思考の重要性
第2回	イメージと思い込みの問題点
第3回	先入観と固定概念の問題点
第4回	メディア情報の問題点
第5回	二分論の問題点
第6回	正しい根拠の探し方
第7回	常識を疑う
第8回	役立つ情報の見極め方
第9回	簡単な数字の読み解き方
第10回	帰納法
第11回	演繹法
第12回	相関関係
第13回	因果関係
第14回	正しい結論の導き方
第15回	正しい結論の導き方
第16回	総括

到達目標

論理的思考の基本的な手法を理解し活用できるようになる。
実践的コミュニケーション能力を身につける。

履修上の注意

遅刻・欠席には厳しく対応する。積極的に発言できる学生の履修が望ましい。
文献の熟読、発表、議論を徹底して行う。

予習復習

毎回課題・宿題を提出

評価方法

出席・課題・積極性、等々によって総合的に評価する。

テキスト

授業内で紹介する。

授業概要

春期「初級簿記」履修者を対象に簿記の総まとめと財務諸表の概要を指導します。授業計画前半は「日商簿記検定 3 級試験」合格を目指し総合問題を中心に学習します。また、後半は財務諸表の構成内容等を学びます。貸借対照表、損益計算書等の読み方や基礎的な経営分析等を学習します。なお授業の後半では仕訳の小テストを毎回実施します。簿記会計はビジネス社会では必須ツールです、是非マスターして下さい。

授業計画

第 1 回	簿記の総合問題 1	仕訳、商品売買、当座預金、小口現金
第 2 回	簿記の総合問題 2	仕訳 手形、その他の期中取引
第 3 回	簿記の総合問題 3	仕訳、決算整理仕訳
第 4 回	簿記の総合問題 4	試算表の作成①
第 5 回	簿記の総合問題 5	試算表の作成②
第 6 回	簿記の総合問題 6	精算表の作成①
第 7 回	簿記の総合問題 7	精算表の作成②
第 8 回	貸借対照表 1	基本概念 貸借対照表と損益計算書の関係
第 9 回	貸借対照表 2	流動と固定の視点、資金バランス、現金化の視点
第10回	損益計算書 1	売上高から当期利益までの構造理解
第11回	損益計算書 2	利益の概念、営業利益と経常利益、当期純利益など
第12回	キャッシュフロー計算書 1	お金の流れをみる、3構造の理解
第13回	キャッシュフロー計算書 2	損益計算書との比較
第14回	経営分析 1	わが社の収益性はどのくらいか？
第15回	経営分析 2	わが社の生産性はいいのか、安全性は大丈夫か？
第16回	定期試験	

到達目標

- ・「日商簿記検定 3 級」に合格する簿記力をつけること。
- ・財務諸表の内容を体系的に理解できること。

履修上の注意

- ・エクステンションセンターの「日商簿記検定 3 級」を受講すること。電卓持参。
- ・交通機関遅延は認めます。

予習復習

- 学習方法
- ① テキストの目次を見ながら自分で説明できるようにする。
 - ② 基本問題集を 3 回解答する。
 - ③ 簿記の学習は反復繰り返しが大切です。

評価方法

定期試験で評価する。授業態度不良者は「不可」評価とする。

テキスト

開講時に公表する。

授業概要

本演習では日本の経営をより深く理解するための準備として、戦後史を中心とした日本経済の変遷と特質を修得する。日本経済は日本的経営の環境要因の一つであると同時に、日本の企業経営が日本経済を支えているという点において、経済と経営の関係は相互に不可分といえる。

経営学は生きた学問として身につけられなければならないが、歴史的視点を加えることも併せて重要である。日本的経営の環境要因としての日本経済は、過去から積み重ねられた歴史的産物であり、時代の一区切りとして、戦後日本経済の移り行きを経営環境の変遷という視角から考察することは、経営学を歴史的かつマクロ面から理解する上で有益と考えられる。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは必須であり、講師は強くこれを奨励する。

授業計画

第1回	ガイダンス —経済と経営—
第2回	日本経済の発展(1) —占領期から復興期—
第3回	日本経済の発展(2) —高度成長期—
第4回	日本経済の発展(3) —国際化と経済摩擦—
第5回	日本経済の停滞(1) —バブル崩壊—
第6回	日本経済の停滞(2) —構造改革の試み—
第7回	日本経済の構造問題(1) —日本的経済システム—
第8回	日本経済の構造問題(2) —少子高齢化と労働市場—
第9回	日本経済の構造問題(3) —社会保障と税—
第10回	日本経済の改革(1) —TPPと農業改革—
第11回	日本経済の改革(2) —アベノミクスと成長戦略—
第12回	経営環境としての日本経済(1) —戦後日本経済史と日本的経営—
第13回	経営環境としての日本経済(2) —日本の産業構造と経営戦略—
第14回	経営環境としての日本経済(3) —日本の労働市場と日本的労務管理—
第15回	日本経済と日本的経営 —演習のまとめ—
第16回	期末試験

到達目標

本演習の到達目標は、履修者が戦後日本経済の変遷と特質を経営学的な視点から修得することである。本演習を通して経済と経営の不可分な関係を認識するとともに、歴史的観点から経済および経営事象を捉えることに習熟できれば、将来、受講生が企業を中心とする組織に属した際に直面するであろう様々な環境変化の本質をより的確に判断する能力が得られると考える。

履修上の注意及び予習・復習

履修者が毎回テーマをもとにテキストの担当箇所を順番にレポートする形式で演習を進める。発表後、履修者全員でテーマに沿って議論を行う。履修者は積極的に演習に参加することが求められるので、レポーターでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んで参加することが必要となる。

遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮する。

評価方法

担当するテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを 70%、期末試験を 30%の割合で評価する。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して記述式で解答を求める。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうか重点を置いて評価する。

テキスト

八代尚宏著『日本経済論・入門』(有斐閣、2015年)。

授業概要

みなさんは「社長」の仕事がどんなことか知っているだろうか。社長の考え方が分かると就職活動をする際に非常に有効となる。何故なら皆さんがどんなにこの企業に就職したいと考えても社長が皆さんを採用する最終決定者であるからである。柴田ゼミでは社長の考え方を理解するため、みなさんにマーケティング・マネジメント・プロセスに基づくビジネスプランの作成や、商品紹介のプレゼンテーションを行ってもらおう。こうした演習を通じて企業やビジネス、マーケティングについて学んでほしい。

授業計画

第1回	オリエンテーション・自己紹介	
第2回	売れるものはどうやってつくる？－西野カナに学ぶマーケティング	
第3回	会社とは？ 社長とは？ 起業について考えてみる－学生起業家を例に	
第4回	自分のやりたいことをお客様の視点で考えてみる	
第5回	事業計画書を書いてみよう！	
第6回	自分のやりたり事業の内容を発表する①	
第7回	お金について考えてみる－売上，経費，利益	
第8回	自分のやりたり事業の内容を発表する②	
第9回	ライバルについて考えてみよう	+ プレゼンテーションの練習①
第10回	売り方と宣伝方法について考えてみよう	+ プレゼンテーションの練習②
第11回	接客がなぜ重要か考えてみよう	+ プレゼンテーションの練習③
第12回	インターネットを活用してみよう	+ プレゼンテーションの練習④
第13回	小売業の基礎の基礎①－小売業の種類	+ プレゼンテーションの練習⑤
第14回	小売業の基礎の基礎②－立地・商圈	+ プレゼンテーションの練習⑥
第15回	小売業の基礎の基礎③－陳列の基本	+ プレゼンテーションの練習⑦
第16回	課題レポート提出の提出	

到達目標

社長の考え方を意識し、それを踏まえた上で、自分のやりたいことをマーケティング・マネジメント・プロセスに基づいたビジネスプランにまとめることを目標とする。

履修上の注意

講義中の私語，携帯電話や音楽機器等の使用，食事は禁止する。公共交通機関の遅れ以外の遅刻については原則認めない。守れない者には厳しく対処する。

予習復習

演習の中でビジネスプランの作り方を指導するので、自分なりのビジネスプランを作成する。また毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

評価方法

出席状況，演習への取り組み方，授業態度，提出課題の内容により，総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。